

論点メモ（案）

① 中学校における常用漢字の「読みの指導」について

- 各学年ごとの読みの字数の割り振りをどのように考えるか。

※ 資料3参照

(参考) 現状の取扱い

○常用漢字（1945字）の大体を読む

（1945字－1006字（小学校で学習する漢字）＝939字を指導）

1年 250～300字程度

2年 300～350字程度

3年 その他常用漢字の大体

※ 新学習指導要領における中学校国語の授業時数（週当たり）

1年－4時間，2年－4時間，3年－3時間

② 常用漢字表改定に伴う教科書上の記載の在り方について

- 教科書上の記載の在り方として，改定常用漢字表に対応した表記や教材の差し換え等について，どのような対応が考えられるか。また，その実施に必要な期間をどのように考えるか。

※ 資料4，5参照

③ 常用漢字表改定に伴う高等学校及び大学の入学者選抜の対応の在り方について

- 常用漢字表の制定時（昭和56年）には，高等学校及び大学の入学者選抜における漢字の出題については一定期間の配慮を行うこととしていたが，今回も同様の配慮を行うことでよいか。

※ 資料4，6，7参照

④ 常用漢字表改定に伴う学校教育での筆写（手書き字形）の取扱いについて

- 改定常用漢字表において，追加字種の字体（印刷文字における字体）については，「表外漢字字体表」（平成12年12月国語審議会答申）に示された「印刷標準字体」を基本としつつ，以下の5字（*）に，括弧内に示す「許容字体」を併せて明示することとされたが，これらをはじめとして，筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが，字体の違いに及ぶものの，学校教育における手書き指導の取扱いについて，どのように考えるか。

* 遡 [遡]，遜 [遜]，謎 [謎]，餅 [餅]，餌 [餌] []の外が「印刷標準字体」

(参考)

「改定常用漢字表」（答申）の「基本的な考え方」の抜粋

「しんにゆう」の印刷文字字形である「し/し」に関して付言すれば，どちらの印刷文字字形であっても，手書き字形としては同じ「し」の形で書くことが一般的である，という認識を社会全般に普及していく必要がある。